

地熱×八幡平市

地熱とともに生きる未来を探る

地熱シンポジウム in 八幡平を開催



50年後八幡平市をどのようなまちにしたいか地熱活用法とともに討論する市民代表者



「高齢者が住みよいまちにしたい」とまちづくりへの地熱活用法を提言する討論参加者



シンポジウム会場前特設ブースを見学する松尾中学校の生徒たち



17日には「地熱ツアー」が行われ、市内の地熱関連施設を巡りました(写真は松川地熱発電所を見学する様子)

地熱シンポジウム in 八幡平が9月16、17日、2日間の日程で開催されました。シンポジウムは松川地熱発電所が昭和41年、商用地熱発電所として日本で最初に稼動してから50年を迎えることを記念し、開かれたものです。

16日、八幡平ロイヤルホテルで行われたシンポジウムには、地熱開発関係者や市民ら県内外から約4,300人が参加。元日本重化学工業の佐藤浩氏が「松川地熱発電所運転開始50年を振り返って」と題して講演し、二酸化炭素排出量が少なく純国産のクリーンエネルギーである地熱発電の仕組みや特徴、これまでの活用事例を解説しました。

また、市民の代表者が「地熱開発と八幡平市の未来」をテーマに開会前実施した討論の結果を発表。次の50年を見据えて、八幡平市のまちづくりにどのような地熱の利活用方法が考えられるかを提言しました。

パネルディスカッションでは、コミュニティデザイナーの山崎亮さんがコーディネーターを務め、田村正彦市長、俳優の紺野美沙子さん、地熱関連事業者らとともに本市が地熱と地域共生の先進モデル都市として可能性を十二分に持っていることと今後の展望について意見を交わしました。参加者は同シンポジウムを通じて、地熱発電開発の歴史とこれからの利活用について理解を深めました。



観光や産業など地熱を活用した市の将来展望について意見を交わすパネリスト

松川地熱発電所が昭和41年10月8日に運転を開始し、今年で50年を迎えることにちなんで、日本記念日協会が10月8日を「地熱発電の日」に制定しました。同シンポジウム中に「地熱発電の日」制定セレモニーが実施され、登録証が日本地熱協会の後藤弘樹会長に授与されました。

10月8日は「地熱発電の日」と認定されました(左から)日本記念日協会加瀬清志代表理事、日本地熱協会後藤弘樹会長、俳優の紺野美沙子さん



10月8日は「地熱発電の日」と認定されました(左から)日本記念日協会加瀬清志代表理事、日本地熱協会後藤弘樹会長、俳優の紺野美沙子さん